

第七十三回帝國議會
衆議院

重要礦物増産法案外一件委員會會議錄(速記)第九回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)
石油資源開發法案(政府提出)

會議

昭和十三年三月五日(土曜日)午前十時四十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 森田 福市君

理事寺島 權藏君 理事長野 長廣君

理事瀧澤 七郎君 理事中田 儀直君

理事中野 寅吉君

小山 谷藏君 栗山 博君

篠原 陸朗君 松尾 三藏君

山田 順策君 山本 条吉君

板谷 順助君 松山常次郎君

土倉 宗明君 川崎巳之太郎君

金澤 正雄君 松木 弘君

野中 徹也君 松永 義雄君

道家齊一郎君

同月四日委員野田文一郎君及玉野知義君辭任ニ付其ノ補闕トシテ山田清君及野中徹也君ヲ議長ニ於テ選定セリ

同月五日委員寺田市正君辭任ニ付其ノ補闕トシテ松木弘君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席政府委員左ノ如シ

海軍參與官 岸田 正記君

商工參與官 佐藤謙之輔君

燃料局長官 竹内 可吉君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

石油資源開發法案(政府提出)

○森田委員長 ソレデハ會議ヲ開キマス、

本委員會ニ併託ニ相成リマシタ石油資源開發法案ヲ上程致シマス、先ヅ政府ノ說明ヲ

求メマス

○佐藤政府委員 石油資源開發法案ノ理

由ヲ御說明致シマス、石油ハ産業上竝ニ國

防上極メテ重要ナル資源デアリマシテ、其

自給ヲ確保致シマスコトハ、現下ノ時局ニ

鑑ミマシテ、一日モ忽ニスルコトノ出來ナ

イ要務ト認メラレマスノデ、此際天然石油

資源開發ニ付テ一層ノ力ヲ致シ、石油供給

ノ確保ヲ企圖スル爲ニ、本法案ヲ提出致シ

マシタ次第デアリマス、次ニ本法案ノ要旨

ヲ御說明致シタイト存ジマス

第一ハ石油鑛業者ニ對シマシテ、石油資源ノ開發ニ關スル事業計畫ヲ作成セシメ、

豫メ之ヲ政府ニ届出デシムルコトニ致シマシタ點デゴザイマス、石油資源ノ開發ヲ促

進致シマス爲ニハ、計畫的ニ試掘ノ遂行ヲ

圖ルコトガ、最も有效適切ナル措置ト考ヘ

ラレマスノデ、石油鑛業者ヲシテ先ヅ適正

ナル事業計畫ヲ樹デシメマシテ、之ヲ實施

スルヤウニ仕向ケテ參ルコトヲ致シタノデ

アリマス、第二ハ試掘助成金ノ交付ヲ受ケ

マシテ、試掘ヲ致シマシタ結果、新ニ油田

ノ開發ヲ見ルニ至リマシタ場合ニ於テ、政

府ハ其油田カラ採油ヲ爲ス石油鑛業者ニ對

シマシテ、一定ノ金額ヲ納付セシムルコト

ヲ得ルコトヲ致シマシタ點デゴザイマス、

試掘ノ助成ニ付キマシテハ、政府ハ今後一

層力ヲ致ス方針デアリマシテ、是ガ助成費

ハ相當ノ額ニ達スル見込デゴザイマスガ、

試掘助成金ニ依ル、試掘ノ結果、新ニ油田

ノ開發ヲ見ルニ至リマシタ場合ニハ、其油

田カラ採油ヲ爲ス石油鑛業者ニ對シ、一定

ノ金額ヲ納付セシムルコトハ、公正ノ觀念

カラ言ヒマシテモ、又財政上ノ負擔ノ關係

カラ見マシテモ、適當ト考ヘタノデアリマ

ス、第三ハ近接又ハ隣接スル鑛區ニ於キマ

シテ、特ニ試掘ノ促進ヲ圖リ、且又鑛利ノ

保護ヲ期スル爲ニ、必要ナル措置ヲ講ズル

コトト致シマシタ點デゴザイマス、即チ地

質構造上極メテ有望視セラル、地域デアリ

マシテモ、其地域ガ數鑛區ニ擴ッテ居リマス

場合ニハ、其石油鑛業者ハ、往々他ノ鑛區

ノ石油業者ノ試掘スルノヲ待タウトスル傾

向ガアツリ、或ハ隣接スル鑛區ノ鑛區境

ニ於テ採油ヲ爲スニ當リマシテハ、從來相

互ニ競争掘ヲ爲シ、濫掘ニ陥ル弊ガアツタ

リ致シマスノデ、斯ル場合ニハ資源開發促

進上、或ハ鑛利保護ノ見地カラ、關係石油

鑛業者ヲシテ、相互ニ協議ヲ爲サシムルコ

トト致シタノデアリマス、第四ハ、政府ガ

石油鑛業者ニ對シマシテ、試掘又ハ試掘ニ

關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得ルコト

ト致シマシタ點デゴザイマス、石油鑛業者

ノ中ニハ、有望ナ鑛區ニ付キ權利ヲ持ッテ

居リナガラ、進ンデ試掘ヲ致サウトシナイ

ヤウナ場合モ想像セラレマスノデ、斯様ナ

場合ニ於キマシテ、政府ガ試掘ヲ強制致シ

マスコトハ、計畫的ニ開發ヲ爲サントスル趣

旨カラ觀マシテ、必要ナコトト考ヘタノデア

リマス、第五ハ政府ガ軍事上必要アリト認ム

ル場合ニ於キマシテハ、石油鑛業者ニ對シ

テ採油ノ制限又ハ増加ニ關シテ、必要ナル事

項ヲ命ズルコトヲ得ルコトヲ致シマシタ點デ

ゴザイマス、開發セラレマシタ油田カラ採取

セラレマス石油ガ、航空機用「ガソリン」ノ原

料、又ハ高級機械油ノ原料等ニ適シテ居リ

マス爲ニ、軍需品トシテ極メテ重要性ヲ持つ場合ニ於キマシテハ、一朝有事ノ際ニ備フル爲ニ、採油ヲ制限セシメマシテ、地下ニ之ヲ保有シ、或ハ必要ニ應ジテ採油ノ増加ヲ圖ルコトモ、軍事上必要ノコトト考ヘタノデゴザイマス

以上ハ本法案ノ要點デアリマス、是等ノ事項ハ本邦ニ於ケル石油資源ノ開發上、最も緊要且ツ適切ナル施設デアルト考ヘタノデゴザイマス、何卒十分御審議ノ上、御同意ヲ與ヘラレンコトヲ切望スル次第デゴザイマス

○森田委員長 引續キ質疑ニ入りタイト思ヒマス——栗山君

○栗山委員 政府ガ近年特ニ液體燃料問題付キマシテ力ヲ傾ケ、種々ナル方法ニ依ツテ助成計畫ヲ確立シ、且ツ實行ニ移サレツ、アルコトハ、洵ニ其熱意ト努力ニ對シテ私ハ敬意ヲ表スル者デアリマスガ、本法案ヲ提出サレル所ノ其精神ハ、果シテ自足自給ノ大方針ニ對スル一次開拓トシテノ、意味ヲ含ンデ居ルモノデアルカドウカト云フコトヲ、先ヅ御伺シタイト思ヒマス

○竹内政府委員 人造石油ノ計畫ヲ立デマシタ際ニ、今後ノ液體燃料ノ自給ノ見透シ竝ニ計畫ト云フコトヲ御説明申上ゲタコト

ヲ、今思出ス譯デアリマス、其當時ハ斯様なコトヲ申上ゲタト記憶致シテ居リマス、即チ人造石油計畫竝ニ其他ノ天然石油、或ハ代用燃料等、兎ニ角國內ニ於テ自給自足シ得ルモノヲ合計致シマシテ、ソレガ人造石油計畫ノ完成致シマスル昭和十七年度ノ需要増加ヲ見込ミマシテ、凡ソ其時ノ二分

ノ一ヲ自給シ得ルニ至ルデアラウト云フコトヲ、其當時申上ゲタト思ヒマス、數字デ申上ゲマスレバ、人造石油ガ揮發油ト重油ト合計致シマシテ約二百萬坪、其他ニ天然石油竝ニ代用燃料ト云フモノガ若干入ッテ居ル譯デアリマス、其計畫ハ大體今日モ私共持ッテ居ルノデアリマスガ、其後ノ吾々ノ研究ニ依リマシテ、地質調査ノ出來上リマシタ所ノ中デ、此際政府ガ一段ノ努力ヲ致シマスナラバ、國內ニ於ケル天然石油ノ増加ヲ期待シ得ルモノガ、相當アルデアラウト云フヤウナ見地カラ、今回天然石油ノ試掘獎勵費ヲ増額致シマスルト共ニ、制度ノ上ニ於キマシテ、今回此法律案ヲ提出スルニ至ッタノデアリマシテ、隨ヒマシテ此試掘ノ計畫ニ依リマシテ、ドレダケノ油ガ出ルカト云フヤウナコトヲ數字デ申上ゲルコトハ、出來ニクイノデアリマス、併ナガラ只今申上ゲマスヤウナ事情デ、此試掘ノ結果

國內ニ於テ天然石油ガ増産シ得ルニ至リマスナラバ、ソレダケ外國カラ入ッテ來ル油ノ輸入ヲ減少シ得ルコトナルノデアリマス、言葉ヲ換ヘテ申上ゲマスナラバ、昭和十七年頃ニ於テモ、尙ホ半分ハ外國カラ輸入シナケレバナラヌ状態ニ對シテ、相當ナ改善ヲ加ヘルコトガ出來ルデアラウ、斯様ニ考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○栗山委員 只今燃料局長官ノ御答辯ニ依リマシテ、洵ニ資源ノ貧弱ニシテ且ツ極メテ條件ノ惡イ事態ニ於キマシテ、容易ニ此増量ノ的確ナル目安ヲ擱ミ得ナイト云フコトハ、固ヨリ本員モ之ヲ承知シテ其當局ノ苦心ヲ諒トスル者デアリマスルガ、如何ニモ此液體燃料ノ國防上、産業上、國民生活ノ向上、文化ノ進ムニ從ッテ、極メテ必要ナル材料デアアルコトハ申ス迄モアリマセヌ、其必要性ノ極メテ重要ナルコトニ鑑ミマシテ、私ハ本問題ハ兎モ角自足自給ヲ目標トシテ、其處ニ大キナル力ヲ以テ推進メナケレバナラヌモノデアアル、斯ウ云フヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、併シ現在ノ状態カラ見マシテ、大體大戦争デモナイ限りハ、日本ノ現状ヨリ推シテ五年後或ハ十年後ニハ、ドノ程度ノ消費量ガアルカト云フコトハ、略、豫想シ得ルト思フノデアリマス、

年々ノ消費増ヲ積算致シマシテモ國防即チ海軍陸軍ノ方面ニ於テ幾許、一般民間ニ於テ幾許ト云フコトハ、大體ニ於テ私ハ見當ガ付クト思フ、但シ生産ノ方ニ於テ見當ガ付カナイト云フコトニ於テ、此自足自給ノ大眼目ガ確立シ得ナイト云フコトニ、落付クト思フノデアリマス、併シ兎モ角此自足自給ヲ大眼目トシテ進マナケレバナラヌモノト致シマスナラバ、私ハ人造石油ノ法案ノ使命カラ言ヒマシテモ、又代用燃料ノ施設獎勵ニ致シマシテモ、又天然石油ノ開發ノ此法案ノ使命ニ致シマシテモ、出來ルダケ増量ヲ圖ルト云フコトガ、何ヨリ重要ナ眼目デナケレバナラヌト、私ハ斯様ニ考ヘマスガ、當局ノ御考ハ如何デアリマスカ

○依藤政府委員 御話ノ通り近代ノ産業ニ於キマシテハ、人體ニ於ケル血ノヤウニ重要ナ石油デアリマス、石油ノ増産ニ對シテ全力ヲ盡スト云フコトハ、全ク御同感デアリマス

○栗山委員 私ハ液體燃料ノ自足自給ノ根本問題ニ付テ論議シマスレバ、極メテ長クナッテ時間モ取リマスルカラ、サ云フコトハ此際省キマシテ、端的ニ今政府委員カラ御説明ニナリマシタ其増産ト云フコトヲ主眼トスルノダ、之ニ重キヲ置クノダト云フ

御精神ヲ基礎ト致シマシテ、今回御提案ニナリマシタ所ノ開發法案ニ付テ、逐條御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス

第一條ニアリマス所謂「命令ノ定ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ之ヲ政府ニ届出ヅベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ」トアリマスガ、此「事業計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得」ト云フコトハ、練達堪能ノ御當局ニ於テ命ゼラレルコトデアリマスカラ、蓋シ其機宜ノ當ヲ誤ラザルコトヲ、私ハ信ズル者デアリマス、併シ實際問題ト致シマシテハ、中々事業家ト監督ノ任ニ當ル政府當局ノ間ニハ、考ヲ異ニ致シマシテ、往々ニ對立スル場合ガアルノデアリマス、斯ウ云フコトガ詰リ當業者ハ、採算的經營ナリト信ジテ居ル場合ニ、政府ガ若シ過大ナル命令ヲ加フル場合ニ於テハ、ソコニ非常ナル相剋摩擦ヲ生ズルト思フ、斯ウ云フコトハ有リ得ルコトデアル、殊ニ私長イ間ノ議員生活デ地方ヲ視察致シマシタリ、議會ニ戻テハ議場ニ於テ政府ノ御説明ナドヲ聽キマシテ、其過去ノ經驗カラ致シマスルト、ドウモオ役人ハ二年カ三年ニ於テ迭ル、甚シキニ於テハ一年デ迭ル、或ハ半年デ迭ル、辭令ヲ貰ツタカト思フト一箇月、三箇月ノ間ニ御轉任ニナル、榮轉サレト云フコトガ少

クナイ、或ハ民間ノ事業會社ニ行カレル、サウ云フヤウナ爲ニ折角熟練シテ、折角或ル意味カラ言ヒマスレバ、所謂宜イ意味ニ於テ仕事ニ馴染ンデ來タ時ニ、迭ルト云フヤウナコトカラ、非常ニ前任者ト後任者トノ間ニ認識ノ開キガアル、サウ云フコトカラ、實ハ當業者ニ於テハ合理的ナ經濟的ナ、商工大臣ガ本會議ニ於テモ御答辯ニナリマシタ合理經濟ヲ主眼トスルト云フ御趣旨ニ、副フヤウナヤリ方ヲヤツテ居ッテモ、迭ッテ來タオ役人ノ爲ニ、或ル意味カラ言ヘバ無理ヲ聽カナケレバナラスト云フヤウナコトガ、有リ得ルノデアリマス、ソコデ私ハ此點ニ付キマシテ、強ヒテ此文ヲ變更シテ、ドウ云フヤウナ文句ニシテ戴キタイト云フヤウナコトハ申シマセスケレドモ、此心構ヘニ對シマシテハ、當局ニ於テハ十分ニ御留意ニナッテ、所謂増産ニ支障ノナイヤウニ合理的、經濟的ニ、而シテ此増産ノ御趣旨ニ悖ルコトノナイヤウニ、御取計ヒニナルコトニ御注意ナサルコトガ、肝要デハナйкаト思ヒマス、御意見ヲ御聽シタイ

○竹内政府委員 一々御尤ナ御意見デゴザイマシテ實ハ只今ノ御意見ハ總テノ行政ノ上ニ於キマシテ、當然ノコトダト思ヒマスガ、特ニ石油ノ開發ニ付キマシテハ、今御言

葉ニモアリマシタ通り、良イ意味ニ於テ官民一體ニ成ラナケレバナラストモノダト思ッテ居リマス、此法律ノ精神モ、實ハ其處ニ在ルノデアリマス、隨ヒマシテ茲ニ事業計畫ヲ立テルト云フコトニナッテ居リマスガ、是モ勿論必要ノ最小限度ニ止メマスシ、又之ヲ變更ヲ命ジマス場合等ニ於キマシテモ、必要ノ最小限度ニ止メテ、要ハ我國ノ地下ニ埋沒サレ、隠サレテ居ルデアラウ所ノ油ヲ見出スト云フコトヲ、官民協力シヨウト云フ所ニ在ルノデアリマスカラ、是ガ實施ニ當リマシテハ、只今ノヤウナ御意見ノ趣旨ヲ、體シテヤルコトニ致シタイト思ヒマス

○栗山委員 私ハ其御精神デ御監督ニナラレルコトニ於テハ、洵ニ満足致ス次第デアリマス、更ニ質問ヲ續ケタイト思ヒマス、第二條ノ試掘助成金ノ交付サレマス額ハ、凡ソドノ程度ニ見込マレテ居リマスガ、又年度計畫ト總豫算ノ數字ヲ御示ガ願ヘレバ結構デアリマス

○竹内政府委員 御承知ノ通り此試掘ノ助成ニ對シマシテハ、現在豫算外契約デ、年度ノ計畫ヲ立テテ居リマスガ、ソレニ依リマスト、昭和十三年度ノ既定計畫ハ約七十万圓デゴザイマス、今回之ヲ増額致シテ、約百七十万圓ニ改訂ヲ要求致シテ居ルノデアリマ

ス、此計畫ハ全國ニ於ケル油田トシテ有望ナ箇所ガ、先ヅ大體八十三箇所バカリアリマスガ、之ヲ十三年度カラ五箇年間ニ、二百四十本ノ試掘ヲヤツテ見タイト思フノデアリマス、其内十三年度ニ於キマシテ、先ヅ三十五本ノ井戸ヲ試掘シタイト思ヒマス、補助ノ率ハ從來大體二分ノ一見當デ致シテ居リマシタガ、此十三年度カラハ之ヲ増額致シマシテ、三分ノ二ノ補助率ニ改メタイ考ヲ持ッテ居ルノデアリマス、又非常ニ有望ナ所デ、其鑛區ノ所有者ガ資力ニ乏シイト云フヤウナ場合ニ、必要デアリマシタナラバ、全額マデ補助スルト云フヤウナ途ヲ拓キタイト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ結果カラ十三年度ニ於キマシテ、只今申上ゲマシタ如クニ百万圓餘ヲ増額致シマシテ、百七十二萬圓幾ラノ經費ニ是ガナルノデアリマスガ、十三年度以降ニ於キマシテハ、今回既定額ヲ改訂致シマシテ、只今申シマシタヤウナ補助率デ、既定ノ本數ヲ掘ルコトニ致シタイト思フノデアリマス、併ナガラ劈頭ニ申上ゲマシタ二百四十本ノ井戸ヲ掘リマス爲ニハ、只今要求ヲ致シテ居リマスヤウナ金額デハ足りマセヌノデ、之ニ付キマシテハ更ニ次年度以降ニ於キマシテ、此助成金額ノ増額改訂ヲ要求ヲ致シタイト思ッテ居リ

マス、大體是ガ豫算ニ關スル説明デゴザイマス

尙ホ附加ヘテ申上ゲテ置キマスガ、試掘ヲ助成致シマス前ニ、ドウシテモ地質ヲ調査スル、地質ノ状態ヲ明ニスルト云フコトガ、是ガ根本デアリマスノデ、其方面ノ經費モ從來十七萬圓餘リアリマシタノニ、更ニ十二萬圓ノ増額ヲ致シマシテ、ソレデ此地質調査ヲ進メタイ考デゴザイマス

○栗山委員 私ハ先ニ年度計畫ト、全部ノ總豫算ノ豫想ヲ伺ヒタイと思ヒマス、是ハ五箇年計畫ト聞イテ居ルガ、本年度カラデスカ、十二年度カラデスカ

○竹内政府委員 五箇年間ト申上ガマシタノハ、十三年度カラ十七年度マデノ五箇年間デアリマス、既定額ニ依リマス、十三年度カラ十七年度マデハ三百一萬九千圓ニナッテ居リマス、ソレニ對シマシテ同ジク十三年度カラ十七年度マデノ五箇年間ノ既定額ガ、五百五十六萬二千圓ト云フコトニ、今回ハ要求致シテ居ルノデアリマス、十三年度カラ十七年度マデノ既定額三百一萬九千圓ガ、五百五十六萬二千圓ニナルノデアリマシテ、即チ二百五十四萬三千圓ノ増額ニナル譯デアリマス

○栗山委員 分リマシタ、私ハ第三條ニ付

テ御伺ヲ致シマス、第三條ハ本案ノ生命トモ申スベキモノデアリマシテ、本會議ニ於テモ大分此點ニ付テハ、強イ論議ガ行ハレタノデアリマスガ、議員諸君ノ中ニハ、第三條ヲ削除スル考ハナイカト云フヤウナ點マデ、質問セラレタ方モアルヤウニ承知致シマス、私ハ特ニ第三條ハ本案ニ取ッテ重要ダト思ヒマスノデ、特ニ此條文ニ付テ御伺シタイノデアリマス、既ニ本會議ニ於テモ相當質疑ハ盡サレテ居ルノデアリマスガ、此増産ヲ目的トスル法案ノ性質カラ言ヒマシテ、既ニ鑛産稅ヲ取ッテ居ルニモ拘ラズ、更ニ採油價額ノ百分ハ二内ニ相當スル金額ヲ納付セシメルト云フコトハ、二重ニ税金ヲ課スルヤウナ結果ニナリハシナイカト云フコトヲ憂フルノデアリマス、私個人ト致シマシテハ本條ヲ削除セラレタシトマデ要求スルモノデハアリマセヌガ、本會議ノ商工大臣ノ御答辯ノ中ニモ、百分ノ二以内ト云フノハ、大分ソコニ餘裕ヲ置イテアルノダ、斯ウ云フヤウナ御説明ガアツクノデアリマス、如何ニモ百分二以内——ニマデデハナイ、ニマデ取ル間ニ餘裕ヲ置イテ居ルノデアルト云フ、極メテ融通ノ利イタ御説明ヲ承ツタ、大體此法文ト云フモノハ、手加減ノ出來ルモノハ當局ノ監督指導、施設宜シキヲ得レバ、

洵ニ結構ナノデアリマスガ、監督ヲ受ケル業者ノ方面ニ取ッテ見マスレバ、條文ニ確實性ガアレバアル程安心ガアリ、而シテ落著キガアル譯デアリマス、商工大臣ノ御答辯ハ、安心ノ向ク方ニ餘裕ヲ置イタ御説明デアリマスカラ、私は結構ダと思フ、サウトシマスト、私ハ本會議ニ於テ盡サレタル質問ノ内容ニ鑑ミマシテモ、寧ロ之ヲ百分ノ一ナラ百分ノ一ト改メラレタ方ガ、政府ノ方デモヤリ宜イシ、又助成監督ヲ受ケル方面ニ於テモ、極メテ安心デアリ、見透シガ付クノデハナイカト考ヘラレマス、私敢テ此言ヲ申シマスノハ、商工大臣ノ本會議ニ於ケル御答辯ニ基イテ致スノデアリマシテ、此點ニ付テ御所見ヲ伺ッテ置キタイと思フ

○竹内政府委員 此納付金ノ制度ハ、實ハ現在既ニ斯ウ云フ考ヘ方デヤッテ居ルノデアリマス、省令デ規定サレテ居リマシテ、助成金ヲ交付シマス時ノ、謂ハム交付ノ條件ト申シマスルカ、ソレデ之ヲ實施ヲ致シテ居ルノデアリマス、只今御尋ノ點ハ、百分ノ二ト云フモノニ餘裕ガアルガ、其餘裕ノヤリ方ニ依ッテハ、却テ當業者ガ不安デナイカト云フ御話デアリマス、是ハ法文ニハ百分ノ二以内ト書イテアリマスト同時ニ常ニ之ヲ徵收スルノデハナク、納付セシム

ルコトヲ得ルト云フヤウニ書イデアリマス爲ニ、餘裕ガアルト云フヤウニ一應説明スル譯ナノデアリマス、最高百分ノ二マデ徵收スルコトガ、妥當デアルト云フヤウナ場合ガアルト致シマシテ、百分ノ二ヲ最高ト致シタノデアリマスガ、之ヲ例ヘバ百分ノ一ナラ百分ノ一必ズ取ルノダト致シマスルコトハ、却テ實情ニ適シナイノデハナイカト思フ、立法ノ趣旨ハ一本ノ井戸ヲ掘リマシテ、ソレカラ出マス油ガ非常ニ多イト云フ場合ニハ、百分ノ二位ハ實ハ負擔トシテハ、少シモ重イモノデハナイノガ、是ハ實情ナノデアリマス、ソレデ經濟的ニ其油田ガ開發セラレテ、算盤ノ上カラ見マシテ當業者ニ著シキ負擔ニナラナイ程度ニ於テ、若干ノ納付ヲサセルト云フ方法ヲ、今回法文化シタノデアリマス、御趣意ニ付キマシテハ政府ニ於キマシテモ、全然同感デアアルノデアリマス

○栗山委員 私ハ敢テ當局ノ方々ト、議論ヲ試ミントスルモノデアリマセヌガ、既ニ鑛産稅ト云フモノモアツテ、業態ガ良ケレバ良イ程、鑛産稅ガ多ク取レルヤウニナッテ居ル、是ガ増量増産ト云フコトヲ主眼トスル、而モ甚シク貧弱ニシテ缺乏セル資源、内地乃至植民地ニ於キマシテモ、資源ノ開發ト

云フ特別ノ使命ヲ持ツ法案デアリマスナ
ラバ、私共ハ寧ロ此程度ノ金額ヲ、御取リ
ニナルト云フヤウナ考其モノヲ捨テラレテ、
根本的ニ所謂自給自足ト云フ理想ノ大眼目
ノ上ニ相應ハシイ立前デ、精神的ニモ其計
畫ノ上ニモ進マル、ト云フコトガ、至當
ト私ハ思ヒマス、ソレデ敢テ私ハ議論ガマ
シイコトヲ致シタイト思フノデアリマセヌ
ガ、寧ロ増量増産ト云フコトヲ、主トシテ
ソコニ力ヲ入レルノデアルト云フノガ、此
法案ノ生レタ所以デアリ、又人造石油製造
ノ如キニ至ッテハ、私共是ハ大イニ贊成致
シマシテ、長官モ御承知ノ通り、随分微力
ナガラ、努力ヲ致シテ參ツノデアリマス、
極メテ結構ナコトダト考ヘテ居リマスガ、
之ニ對シテモ、詰リ天然石油ト人造石油ト
ノ値幅ノ十五錢程度ノモノハ、是ハ補給ス
ル、獨リ機械器具ノ輸入税ヲ免稅スルトカ、
或ハ公課ヲ免稅スルトカ云フヤウナ保護ヲ
與ヘルノミナラズ、ソコ迄モ力ヲ注イデ居
ル、市價ノ變動、原料或ハ「コスト」ノ變動ノ
爲ニ損失ヲ生ジテ參リマシテモ、ソコニ天
然石油ト人造石油トノ値幅ハ、補給スルノ
ダト云フ立前デ、尙ホ今後七箇年程ノ長キ
ニ互ッテ、補助獎勵スルノダト云フヤウナ非
常ナ意氣込デ、サウ云フヤウナ力強い精神

カラ以テ、既ニ人造石油ト云フモノヲ造リ
上ゲテ居ル、其要スル資本金額モ七億八千
萬圓ト申シマスレバ、洵ニ大キナ金額ニ達シ
テ居ル、日本ノ國家ノ財政カラ言ヒマシテ
モ、民間ノ金融情勢カラ考ヘマシテモ、其金
額ハ小サイトハ致シマセヌ、日本ノ經濟界ニ
相當ニ重要性ヲ持ツタ金額ナノデス、ソレヲ
モ出資サレルダケノ抱負經綸ヲ以テ、又熱
意ヲ以テ努力サレタノデアリマスカラ、私
ハソレナドニ較ベマスレバ、寧ロ最下額ノ
「パーセンテージ」ナリトモ之ヲ納メサセル
ト云フヤウナコトハ、其考ヘ方カラ取除ケラ
レタ方ガ、宜イノデハナイカト云フ位ニ考ヘ
テ居ルノデアリマス、政府ガ納入金ヲ御取
リニナルト云フコトハ、更ニ其金助成獎
勵ニ資スルノダト云フコトニモナリマセウ、
又此液體燃料ノ國策ニ資スル爲ニ、必要ナ
財源ニスルノダト云フ意味ニ於テモ、決シ
テソレハ惡ク取レルヤリ方デアリマセヌ
ケレドモ、増量増産ト云フコトガ主眼デア
ルト致シマスナラバ、寧ロ私ハ思切ッテ考
ヘ方ヲ變ヘテ、立案サル、コトガ當然デア
リ、肝要ナコトデアルト信ズルモノデアリ
マス、既ニ法案トナッテ現レタト致シマスナ
ラバ、セメテモ私ハ百分ノ一ト云フ位ニ御
訂正ナサル方ガ、其獎勵ノ御趣旨ニ適ヒハ

シナイカ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、自
分ノ所見ヲバ一應此點ニ於テ申上ゲテ置キ
マス

○小山委員 一寸關聯シテ申上ゲマス、今
ノ栗山君ノ御話ハ、此法案ヲ取扱フ根本思
想ニ觸レテ、私非常ニ重要ナ點ダと思フノ
デス、成程今燃料局長カラノ御話ノ通り、
政府ノ獎勵金ヲ貰ッテ井戸ヲ掘ル、掘タノ
ガ油ガ出テ來レバ、是ハ百分ノ二ガ百分ノ
十デモ、或ハ百分ノ五十ヲ納付シテモ宜イ
ヤウナ場合ガアルカモ知レヌ、惟フニアノ
八橋、院內ノヤウナ良イ井戸ガ出テ來ルト
百分ノ何十ト云フモノヲ政府ヘ納付シテモ、
儲カルダラウト私ハ思フ、能ク知りマセヌ
ケレドモ、サウ云フ場合モアリ得ルガ、併
シ此法律ノ立前ハ、今栗山君ノ言ハレル通
リ、民間ニ儲ケサスト云フノデナケレバ、
法案ノ目的ハ達シハシマセヌ、儲ケルモノ
ハドシ、儲ケサシテヤルト云フ立前デ進
ンダ方ガ、宜イノダト私共思フ、僅カ百分
ノ一ヤ二ヲ取ッテ何ニナリマス、ソナケチ
ナ根性ヲ直グ投ゲ棄テ、シマッテ、サウシテ
此燃料國策ト云フコトハ、此處ニ海軍當局
ハ御見エニナラヌケレドモ、私共ノ眼カラ
見ルト云フト、今御承知ノ國家總動員法案、
是ハ可ナリ熱心ニ審議シテ居リマスガ、何

ノ爲ニアナモノヲ出シテ來タカト云フト、
ドウモ何時ドンナ事變ガ起ルカモ知レヌト
云フ豫想ノ下ニ、支那對手ノ時ニハ餘計海
軍ノ活動ハ要ラナイデセウケレドモ、海軍
ガ主力トナッテ總動員法案ノヤウナモノガ
起ル場合ヲ豫想致シマス、實ニ是ハ寒心
ノ至リニ堪ヘナイ、幸ニ我國ニハ燃料局長
ノ言ハレル通り、尙ホ開發スルナラバ相當
ノ見込ノアル鑛區モアルノダ、私共ハ燃料
局ガドノ程度マデ其見込アリト御考ニナッ
テ居ルカ知リマセヌガ、私共全ク素人ノ見
ル所デアリマスケレドモ、何故ニ更ニ大ニ
力ヲ入レテ、地質調査其他ヲヤラナイノダ
ラウカ、今折角是ハ増産計畫ヲ樹テラレテ、
只今伺ヒマス、五箇年間五百萬圓ノ補助
費ヲ出スト云フ、私ハソレニ實ニ不滿ナン
ダル、三百萬圓、五百萬圓出シテ、果シ
テドウカト思フノデアリマスガ、併シ兎ニ
角是デ政府ハ出來ルダケノ力ヲ貸シテ、サ
ウシテ儲ケサセル、増産計畫ノ最終ノ目的
ハソレナンデスヨ、重要鑛物ノ増産計畫モ
御樹テニナラレテ、其法律案ヲ出サレタ、
洵ニ結構、私ハアノ重要鑛物ノ増産計畫ヲ見
タ時ニ、産金ニハ非常ニ熱心デアル、私共ノ
眼カラ見ルト、石油ニ致シマシテモ、重要鑛
物ニ致シマシテモ、産金以上デアル、産金計畫

ヲ樹テ、ソレニハ獎勵ノ爲ニ會社マデ拵ヘテ、或ル場合ニハ資金援助マデシテヤラウト云フ、結構デス、金モ今日大藏省邊リニ言ハセルト、非常ニ欲シイラシイ、何ノ爲ニ金ガ欲シイノダト言ヘバ、石油ヲ買フ爲ニ欲シイノデアリマス、重要礦物ヲ買フ爲ニ欲シイノデアリマス、ソレナラ産金ニ與ヘル助成以上ニ、重要礦物ナリ石油ニ計畫ヲ樹テルガ宜シイ、シテ見ルト今栗山君ガ言ハレタヤウニ、鑛産税モ拂ツテ居ル、其鑛産税モ免除シテヤルガ宜シイ、コンナケチナ、採油ヲシタラ取ルナント云フ、ソナ考ハ捨テテシマツテ、先ヅ儲ケサセテヤル、愈、儲カッタト云フ時ニナツタナラバ、其時ニ初メテ取ルベキモノハドシムト御取リニナルガ宜イ、要スルニ今日マデ日本ハ、石油鑛區ハ外ノ獨逸ヤ伊太利ニ較ベテ相當豊富ニアルベキ筈ノモノガ、何故ニ開發サレナイカ、是ハ非常ニ危險ガ伴フト云フ所ニアルト思フ、政府ノ言ハレル通り、ソレヂヤヤツテ必ズ油ガ出ルカト云フコトハ、何人モ保證ハ出來マセヌケレドモ、少クトモ政府ガウント力ヲ貸シテ、是ハ事實出テ來ルモノデアルト云フナラバ、是ハ開發シナケレバナラス、今日ノ最大ノ急務ハ開發スルト云フコトナノデアリマス、開發スルト

云フコトニ、眼點ガアルナラバ、是ハドシドシヤラナケレバナラス、モウ少シ一ツ腹ヲ大キクシテ欲シイ、マア惟フニ當局ノ御考ハ、斯ウシテ納付金デモ取ツテ、更ニ開發ノ援助デモシヨウト云フ所ニアルノダラウト思フ、ソレナラバ商工當局トシテ、燃料當局トシテ、何故大藏省ガ産金獎勵ヲスル以上ノ援助ヲシナイカ、私共ハ大部分ノ眼點、主力ハ茲ニアルト思フ、金以上ナノデアリマス、金ヲ採ツテ何ニスルカト云ヘバ、石油ヲ買フ爲メデアル、デアリマスルカラ、今栗山君ノ言ハレタ點ハ、是ハ此法案ヲ審議スル上ニ於テ、非常ニ重要ナル眼點ダト思フ、何レ更ニ是等ノ點ニ付テハ、他ノ委員諸君カラ種々ナル意見モアリマセウガ、一寸關聯致シマシテ、率直ニ私ノ見ル所ヲ申上ゲマシタ、之ニ關シテ若シ當局ノ御意見ヲ聽クコトヲ得レバ結構デアリマスガ、敢テ答辯ヲ要求スル程ノモノデモアリマセヌ

○森田委員長 今栗山君ト小山君カラ、當局ニ法第三條ノコトノ御質問ガアリ、御答ガアル筈デアリマスガ、此點ハ私ハ斯ウ云フコトヲ考ヘテ居ル、今度ノ此増税法ニ依ッテ、緩和點マデ設ケル程取ルノデス、隨テ何モ石油ヲ納付サセヌデモ、非常ニ儲が多カッタ場合ニハ、今度ノ増徴法ニ依ッテ直接國稅デ取上ゲルノダカラ、コンナ面倒ナコトヲシナクテモ、結果ハ同ジナノデアリマス、儲ケサセレバ宜イト云フ議論ガ今出テ居ルガ、儲ケサセテモ百分ノ十ナリ百分ノ七マデノモノニ對シテ、稅ヲ取ルト云フコトニナツテ居ルノダカラ、ソコハコンナ面倒ナコトヲシナイデモ宜イノヂヤナイカト思ヒマスガ、一寸簡單ニ意見ヲ申上ゲテ置キマス

○竹内政府委員 我國ノ油田ノ開發ニ、出來ルダケノ力ヲ盡サナケレバナラスト云フコトニ付キマシテハ、當局モ決シテ熱心デナイ譯デハナイノデアリマス、是ハドウシテモヤラナケレバナラスノデアリマス、大イニ奮發シテヤラナケレバナラスト考ヘテ居ルノデアリマス、先程私ガ年度計畫ニ付キマシテ、三百万圓ノ既定額ヲ二百五十六万圓バカリヲ殖シマシテ、五百五十六万圓ニナルト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタ、是ハ十三年度ハ、先程申上ゲマシタ二百四十本ノ井戸ヲ掘ル計畫ノ中ノ、三十五本ヲ掘ル助成金ガ入ッテ居リマスケレドモ、十四年度以降ニ於キマシテハ、掘ル井戸ノ數ハ既定計畫其儘ヲ一應取テ居ルノデアリマス、隨テ二百本餘リノ井戸ヲ、十四年度以後ニ掘リマス助成金ト云フモノハ、更ニ改訂ヲ要求シタイト云フコトヲ一寸劈頭ニ申上ゲマシタガ、序ニ一寸金額ノ見透シダケヲ申上ゲマスト云フト、此五百五十六万圓バカリノ金ガ、結局ニ於キマシテハ一千二三百万圓ニ上ルノデハナイカト思フノデアリマス、是ハマダ改訂額ヲ要求スル所マデ行ッテ居リマセヌカラ、先程ハ申上ゲナカッタノデアリマスケレドモ、當局ノ意氣込ヲ一應申上ゲマス爲ニ、此機會ニ之ヲ附加ヘテ申上ゲテ置ク譯デアリマス、其事ト、助成金ニ依ッテ開發セラレマシタ油田カラ、油ガ相當多量ニ出タ場合ニ、其毎年出マス油ノ百分ノ二以內ヲ、政府ニ納付セシメルト云フコトハ、必シモ矛盾シナイノデハナイカト、實ハ私考ヘテ居ルノデアリマス、是ハ意見ガマシクナリマシテ何デアリマスケレドモ、當局ノ考ヲ一寸申上ゲマスナラバ、是ガ却テ官民協力シテ油田ノ開發ニ努力スル所以デハナイカ、勿論助成金ヲアルダケニシテ、納付セシメナイト云フコトノ方ガ當業者ニ取ッテ開發ノ氣持ヲ一層熱心ナラシメルノデハナイカト云フヤウナ、御氣持カラノ御尋ト思フノデアリマスガ、實ハ此點ニ付キマシテハ、此法案ノ成案ヲ得マスルマデノ間ニ、昨年ノ暮ニ主ナル鑛業權者數社ヲ集

メマシテ、此點ニ付テノ懇談ヲシテ見タノ
デアリマス、當局ニ於テハ相當理由アリト
認メテ、斯ウ云フコトニシタイノデアアルガ、
君等ノ意見ハドウカ、所ガ其理由アリト認
メタノデアリマセウ、其場合ニ於キマシテ、
何處モ一言ノ反對モナク、或ル會社ノ如キ
ハ、是ハ極メテ有意義ナコトデアルト云フ
ヤウナ氣持モアツタノデアリマス、隨ヒマ
シテ此制度ガ、當業者ノ開發ヲ致シマスル
熱心サヲ多少デモ殺グト云フヤウナコトハ、
萬ナイモノト私共ハ今日考ヘテ居ルノデア
リマス、其考カラ致シマシテ、只今申上ゲ
マシタヤウナ十四年度以降ニ、相當多額ノ
國費ヲ要スルト云フコトガ一點、竝ニ助成
金ニ依テ出タ油カラハ、其若干部分ヲ政府
ニ納付スルト云フコトハ、是ハ寧ロ公正ノ
觀念カラ言ウテモ適切デハナイカ、斯ウ云
フヤウナ意味デ、提案ヲ致シテ居ル次第デ
アリマス

○粟山委員 只今ノ長官ノ御説明ニ依リマ
スト、業者ノ間ニ諮ッテ、既ニ業者モ諒トシ
テ居ルト云フヤウナ御話デアリマスガ、私
ハ日本ノ今日ノ液體燃料ノ問題ハ、現在ノ
會社ニ於テハ到底自給自足ノ大目的ヲ達シ
得ル力ヲ持ッテ居ナイト思フ、ソレ故ニ政府
ガ、詰リ陸海軍、商工省、政府全體ノ責任

ニ於テ國ノ實力ニ於テ思切ツタコトヲ斷行サ
レナケレバナライ、即チ人造石油法ノ實
現ノ如キハソレナノデアアル、ソレデアアルカ
ラ私共ハ今業者ノ考ガドウトカ斯ウトカ云
フヤウナ小サナ所ニ即セズシテ、是デ本當
ニ増量増産ノ計畫ヲ進メ得ルノダト云フ、
大キナ考カラ此法案ガ存在シテ居ルノダト
云フコトニ於テ、御説明ヲ伺ヒタイノデア
リマス、私ハ長官ニ切ニ其點ニ於テ御健在ナ
ランコトヲ望ム次第ナノデアリマス、成程
現在ノ業者ニモ大キナ者モアリ、小サナ者
モアル、營業狀態ノ好イ者モアリ、惡イ者
モアリマセウ、併シ又此國策ニ協力シテ、
鑛山デ儲ケタ金ヲ更ニ此方面ニ向ッテ、自分
ガ犠牲ニ投ジヨウト云フ人ガアツテ海外
ニ對シテ資源ノ開發ヲ計リ、國內ニ於テモ
油田ヲ開發セントスルモノモアリ、或ハ液
體燃料事業ヲ著手セントスル者モアルカモ
知レナイ、又ナケレバナライ、ソレデナケ
レバ此國策ハ遂行出來ナイ、現在ノ業者ノ
ミニ重點ヲ置イタノデハ、此大目的ヲ達シ
得ナイ、デアリマスカラ、サウ云フ諮問ナ
ドニ重キヲ置カズシテ、ソレハ一ツノ參考
ニスルノモ宜シウゴザイマセウガ、ソレヨ
リ更ニ進ンデ大眼目カラ考ヘテ、御進ミヲ
願ヒタイ、私ハ何モ細カイコトヲ言フノデ

ハアリマセウガ、既ニ議員諸君カラ本會議
ニ於テ述べラレタノデアリマスガ、或ハ増
産、増量ニ對シテノ主眼トスル所ノ立前カ
ラ言ッテ、ドウモ窮屈デハナイカ、早ク言ヘ
バ手數ガ多過ギルデハナイカ、ト痛感スル
ノデアリマス、現ニ現在ノ石油鑛業者ハ、
他ノ議員諸君モ指摘セラレタヤウニ、千分
ノ六ト云フ鑛山稅ヲ拂ッテ居リ、ソレカラ
地主ニ對シテハ採油額ノ百分ノ一、鑛區ガ
他人ノ所有デアッタ場合ニハ鑛業權者ニ百
分ノ五拂ッテ居ル、サウ云フヤウナ負擔ガ幾
ラデモ折重ッテ居ル、實際日本ノ石油業
者ハ、斯ウ云フ國策の線ニ乘ッテ營業
シテ居ルニ拘ラズ、中々手數ガ掛ル、謂ハバ
俗ニ言フ繁雜ナ狀態ニアル譯デアアル、サ
ウ云フコトハ決シテ増産、増量ノ精神ニ
適ッタモノデハナイ、成ベク簡易ニ運營且
ツ取付キ易イヤウニシテヤルト云フコト
ガ、當局ノ監督指導ノ方針デナケレバナラ
スト思フ、サウ云フ意味カラ成ベク法ハ簡
易ニシテ、取扱ヲ簡易ニシテヤル、ソコニ
重點ヲ置カレンコトヲ希望スルモノデアリ
マス、其點カラ考ヘマス、寧ロ斯ノ如キ
モノハ撤廢ヲ致シマシテ、他ノ大キナ考カ
ラ、國民ニ向ッテ之ニ協力スル負擔ノ捻出
ニ諒解ヲ與ヘヨ、斯ウ強ク出ラレタ方ガ賢

明デハナイカト考ヘルモノデアリマス、併
シ折角コ、迄御苦心ニナツタ法案ヲ、支持
シテ行カウトセラレルナラバ、私ハ百分ノ
一位ニハッキリ決メテ、「以內」ト云フ文字ヲ
除イテ、百分ノ一ナラ百分ノ一ト、極メテ
簡明直截ニ取扱ッテ行カレタ方ガ、其精神ニ
適フノデハナイカ、斯様ニ考ヘルモノデア
リマス、先ヅ此點ニ付テ長官ノ御答ヲ願ヒ
マス

○竹内政府委員 先程ノ御質問ニ對シテ、
一應百分ノ一ト確定的デナイ方ガ、實情ニ
合フト云フコトヲ、簡單ニ抽象的ニ申上ゲ
マシタガ、具體的ニ之ヲ申上ゲマス、油
田ノ條件ニ依リマシテ油ノ出ル量ニモ違ヒ
ガアラウト思ヒマス、ソレカラ又助成金ヲ
場合ニ依リマシテハ全額ヤルトモアリマ
ス、大體三分ノ二ヲ原則ト致シマスケレド
モ、助成金ノ額ニモ差異ガアルノデ、斯ウ
云フヤウナコトヲ考ヘマシテ、實際ニ適應
スルヤウニ、當業者ノ負擔ニナラヌ程度ニ
於テ實情ニ合フヤウニ、之ヲ決メテ行キタ
イト云フノデアリマシテ、ソレニハドウシマ
シテモ最高限度ダケヲ決メテ置キマシテ、
其最高限以內ニ於キマシテハ、其實情ニ合
フヤウニ、ソレヲ適用シテ行ク方ガ、實際
ニ合フノデハナイカト云フ風ニ、政府デハ

考ヘテ居ル次第ゴザイマス

○栗山委員 本案ヲ支持スル熱意ヲ持ッテ居ラレコトニ對シマシテハ、當局ノ御心ヲ諒トスル者デアリマスガ、命令ノ定ムル所ニ依リト云フコトガ、ドウモ私ハ氣懸リニナルノデアリマス、何レ本法ガ法律トナッテ施行サレル場合ニハ、施行細則ガ設ケラレルト思ヒマスガ、ソレナラバ納付金ハ原則トシテ必要ト認メタルモノノミニ課スルコトナクシテ、採油ノ利益ヲ生ズルニ至リタル場合ニ限ッテ、負擔セシムルヤウニスル、モウ一ツハ納付期間ハ政府ノ案ノ五箇年間ハ、是ハ宜シイデアリマセウ、御計畫ニナッテ居リマス其期間ニ於テ納付金ガ、交付セラレタル試掘助成金額ニ達シタル時ハ、其納期ノ打切ラレテモ宜シイノデハナйкаト、本員ハ考ヘルノデアリマ스가、サウ云フ點ニ實際本法ヲ實施サレル場合ニ、御考慮ニナラレテハ如何デセウカ

○竹内政府委員 開發セラレタ油田トアリマスノハ、只今御話ニアリマシタ通り、實際ソレハ經濟的ニ稼行ノ價值ガアルト認メタ場合デアリマス、唯油ガ少シ出タカラ直チニソレヲ以テ、納付金ヲ命ズルト云フヤウナ趣旨デハナイノデアリマス、是ハ速記録ニ留メテ貫ヒマシテ、明ニソレヲシテ置

イテモ宜シイノデアリマス、即チ採油ヲ見

ルニ至リマシタ油田デアテ、且ツソレガ經濟的ニ稼行ノ價值ガアルト認メタルノミヲ以テ、初メテ開發セラレタル油田ト考ヘルノデアリマス、ソレカラ交付セラレタ助成金ヲ限度トシテハドウカト云フ御尋デアリマスガ、實ハ是ハ政府トシテ餘計金ヲ取リタイト云フ趣旨デハ決シテナイノデアリマス、唯先程カラ申上ゲマス通り、此制定ノ理由ノ一ツトシテハ、公正ト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、一ツノ油田ガ二ツノ鑛區ニ分レテ居リマスルヤウナ場合ニ、一ツノ甲ノ鑛區ガ助成金ヲ貫ヒマシテ、サウシテ此一ツノ油田ノ價值ガ定マリマシタ場合ニハ、隣ノ乙ノ鑛區ハソレダケノ危險ヲ履マズシテ、油ノ存在ヲ知ッタノデアリマス、併シサウ云フ場合ニハ乙ノ鑛區ノ人モ、之ニ對シテ納付金ノ制度ヲ適用スルト云フコトガ、是ハ甲乙兩鑛區間ノ公正ダラウト思フノデアリマス、此法律ハサウ云フ風ニ適用シテ行ク積リデアリマスノデ、隨テ納付金ノ交付金ヲ限度トスルト云フコトニナリマス、往々ニシテ一方ノ人ガ相當額マデ掘ルノヲ待ッテ、其納付金額ニ達スルノヲ待ッテ、即チ最早納付金ノ必要ガナクナッテカラ、掘

ルト云フコトニナリ易イノモ、是ハ當然デ

ハナйкаト思フノデアリマス、隨ヒマシテ問題ハ、此納付金ノ額ヲ多クヲ取ラナイト云フ所ニ、眼點ガアルノデアリマシテ、納付金ノ交付金ヲ限度トスルト云フコトノ實施シ難イ理由ハ、ソコニアルト思フノデアリマス

○栗山委員 私討論ガマシイコトヲ欲スルノデアアリマセヌガ、隣ノ鑛區ノ噴油ノ様子ヲ見テ、實際鑛業權ヲ持ッテ居リナガラモ、手ヲ著ケナイヤウナコトガアッテハイケナイト云フコトヲ、御心配ニナラレルガ、政府ハサウ云フ鑛區ニ對シテハ試掘ヲ命ズルコトガ出來ルノガ、此法案ノ骨子デアアル、デアリマスカラ其點ハ御懸念ハナカラウト思フ、所謂政府當局ノ監督ガ、十分ニ行届イテ居レバ一向差支ナイ、ソレ以外ノ點ニ於キマシテハ、私増産増量ヲ主眼トスル點カラ言ヘバ、寧ろ政府ガ與ヘタ助成金ガ返納サレテ來タト云フ程度ニサル、方ガ、合理的デナйкаト思ヒマス、更ニ私ハ第七條ニ付テ御伺致シタイ、本規定ハ開發促進ノ一方法デアルト私モ考ヘマスガ、併シ茲ニ第七條ノ中ニ「開發方法其ノ他必要ナル事項ニ付キ他ノ石油鑛業者ト協議ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得」トアリマスガ、此

協議ト云フコトハ、要スルニ人夫トカ材料トカ試掘ニ要スル資金ト云フヤウナコトノ協議ヲスルコトヲ、命ゼラレルコトト思フノデアリマスガ、併シ其協議事項中最モ重要ナコトハ、ヤハリ資金ノ負擔ニ關スル協議ガ、重要ナ點ダト思フノデアリマス、ソレデ例ヘバ乙鑛區ノ鑛業權者ガ、隣接セル甲鑛區ノ鑛業權者ニ試掘スル費用ノ分擔ヲ申込ミマシタ場合ニ、之ヲ試掘ノ事前ニ爲シ得ルモノト致シマスレバ、茲ニ弊害ガ頻發スル憂ハナйкаト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、政府ノ所見ハドウデアリマスカ

○竹内政府委員 仰セノ如ク協議事項ノ内容トシマシテハ、費用ノ負擔ト云フコトガ、最モ數多ク起ルコトデアラウト思ヒマス、ソレガ爲ニ弊害ノ起ルト云フ憂ヲ御懷キノヤウデアリマスガ、ドウ云フ場合デアリマセウカ、一寸私共分リ兼ネマスガ、併ナガラ費用ノ負擔ト云フコトニ付キマシテハ、方法ガ色々アルダラウト思フノデアリマス、初メカラ一定ノ費用ヲ豫定シマシテ、ソレヲ分擔ラシテ、所謂共同ノ出資ニ依ッテヤル場合モアリマセウシ、或ハ二人ノ中ノ一人ガ之ヲ引受ケテヤリマシテ、油ガ出マシタ場合ニ、他ノ者カラ歩油ヲ徵スルト云フ場合モアリマセウシ、其場合ニ依リマシテ

當業者間ノ協議ノ方法ハ、色々アルノデハ
ナイカト考ヘテ居リマス

○栗山委員 隣リノ鑛區ハ非常ニ資力ノア
ル鑛業者ガ、鑛業權ヲ持ッテ居ル、一方ハ
往々ニシテ所謂山師ノ鑛業者ガ所有シテ
居ル、ソコデ詰リ自分ノ方ハ眞面目ニヤル
考ガナク、思惑的ニ又ハ金策ノ都合上カラ
其試掘ヲ行ハント計リ、サウシテ隣リノ優
良ナ資本家ニ向ッテ、徒ニ資金ノ融通ヲ迫
マルヤウナ憂ガ、山師ノ間ニ往々アルヤウ
ナコトヲ聽キマスガ、サウ云フ憂ハアリマ
セスカ

○竹内政府委員 其ヤウナコトハ實際問題
トシテ、或ハアルコトモゴザイマセウ、又
從來モ聞イテ居ルコトガナイデモアリマセ
ヌ、併ナガラソレハ此法律トハ別ニ關係ノ
ナイコトデハナイカ、斯ウ考ヘルノデアリ
マス、隨ヒマシテ此法律ノ結果、隣接鑛區
間ノ協議ト云フコトガ、強制スルコトニナッ
テ居リマスガ、ソレニ依ッテ其弊害ヲ多ク
スルト云フコトハ、必シモ私共考ヘテハ居
ラナイノデアリマス、併シ萬々一ニモサウ
云フコトニ依リマシテ、即チ心ナラズモ協
議ヲサセラレタト云フヤウナ場合ニ於キマ
シテハ、第七條ノ三項、四項ノ規定ニ依リ
マシテ、之ヲ矯正スルコトガ出來ルモノト

考ヘテ居リマス

○栗山委員 ソレデハ私ハ更ニ質問ヲ進メ
マス、此法案中ニ、ヤハリ重要ナ點ト思フ
ノデアリマスガ、第七條ノ二項ニ「境界線ヨ
リ五十「メートル」以内ノ地域ニ於テ採掘ヲ
爲サントスルトキハ」トアリマスガ、此五
十「メートル」ハ日本ノ地理的状況ニ鑑ミマシ
テ、距離ガ廣過ギハシナイカト思フデスガ、政
府デハ之ヲ三十「メートル」又ハ二十五「メー
トル」位ニ短縮スル御考ハアリマセスカ

○竹内政府委員 此問題ハ、詰リ天然ノ資
源ヲ出來ルダケ合理的ニ、出來ルダケ油ヲ
ソツノナイヤウニ汲取ラウト云フコトガ主
眼デアリマス、而シテ五十「メートル」ト致シ
マシタノハ、御承知ノ通り現在鑛區ト鑛區
ノ間ニハ、二十「メートル」ノ間隔ガアリマシ
テ、其境カラ五十「メートル」ゾツ下ツタ所ニ、
此標準ヲ置イタノデアリマスガ、ソレヲ合
計シマスト百二十「メートル」ニナル譯デアリ
マス、從來地質學的ナ方面ノ意見トシマシ
テハ、井戸ト井戸トノ距離ハ、油層ノ深サニ
依リマシテ、相當ノ間隔ヲ置カナケレバナ
ラスコトニナツテ居リマシテ、ソレハ大體百
二十「メートル」ト今日言ハレテ居ルノデアリ
マス、隨テ之ヲ最大限度トシタ譯デアリマ
スガ、其間ニ於キマシテハ井戸ガ掘レナイ

ト云フノデハナイノデアリマス、其間ニ於
キマシテハ隣接鑛區間オ互ニ協議ヲシテ、
井戸ヲ掘ル場所、掘ル間隔等ヲ協議サセヨ
ウ、斯ウ云フ趣旨デアリマスノデ、御心配
ノヤウナコトハナカラウト思フノデアリマ
ス

○栗山委員 日本ノ内地ノ如キハ狹クシテ
長ク、サウシテ越後ノヤウニ比較的廣イ平
面地帯ニ於テモ、實際石油地帯ト云フモノ
ハ、小山續キノヤウナモノデ、其處ニ河ア
リ谷アリト云フ譯デ、洵ニ狹隘ナ所ガ多イ
ト思フ、サウ云フ云フヤウナ所デ五十「メー
トル」ト云フヤウナ距離ヲ測定シマス、始
終繋ガ頻發シハシナイカト云フヤウナ虞
ヲ私ハ持ツノデアリマス、ドウモ其點ニ付
テハ長官ノ御考ト——是ハ私共ノ素人考ニ
過ギナイカモ知レナイガ、日本ノ地形カラ
考ヘマス、ドウモ寧ロモウ少シ距離ガ短
イ方ガ宜シイノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ
考ヘラレマス、私ノ考ヘダケヲ申上ゲテ置
キマス、私ハ更ニ質問ヲ行ヒタイト思フノ
デアリマスガ、第八條ノ末項ニ「政府前項
ノ規定ニ依リ試掘ヲ命ジタルトキハ第二條
ノ試掘助成金ヲ交付ス」トアリマスガ、政府
ガ命ズル場合ニ試掘スルモノガアレバ、思
切ッテ全額ヲ支給サレタラ如何ナモノデセ

ウカ、端的ニ御伺致シマス

○竹内政府委員 第八條ハ第二條ノ試掘獎
勵金ヲ交付スル、斯ウナツテ居リマスガ、大
體ハ政府ガ命ジタ場合ニ於キマシテハ、全額
ヲ交付スルコトニナルト思フノデアリマス

○栗山委員 満足致シマス、ソコデ此第九
條ニ於テ御伺致シタイト思ヒマス、第九條
ノ「石油鑛業者ニ對シ採掘ノ制限又ハ増
加ニ關シ必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ
得」而シテ其別項ニ「前項ノ規定ニ依
ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス」
トアリマス、此採油ノ制限ヲ政府ガ命
ジテ損失ヲ補償シタル場合ニ付テ、伺
ヒタイノデアリマスガ、例ヘバ茲ニ千石出
ル井戸ガアリ、之ヲ五百石ニ制限シロト云フ
場合ニハ、五百石ダケノ損失ヲ補償スルヤ
ウニ考ヘラレマスケレドモ、實際上ノ業者
ノ立場カラ申シマスレバ、ソレニ對スル所
ノ人夫募集ノ費用又ハ休業ノ失費又ハ勞働
者解僱ノ費用、更ニ製油ノ設備トカ云フヤ
ウナ點ニ於テ、相當直接間接之ニ加重シタ
ル損害ガ、計上サレルモノト思ハレマス、
サウ云フ場合ニ於テ成ベク其實損額ヲ補償
シテヤルト云フヤウナ御考ハナイデアリマ
セウカ、殊ニ私ハ前カラ申上ゲマス通り、
此法案ト云フモノハ、増産増量ト云フコト

ガ主眼デアル、然ルニ偶、制限ヲ要スルト云フヤウナ、殆ド想像シ得ナイヤウナ事態ニ遭遇スルト云フノハ、餘程ノ場合デアラウト想像サレマス、サウ云フ場合ニ於テハ、實費ノ損害ノ補償ヲサレルト云フヤウナ心構ヘデ御取扱ニナルノガ、至當ダト思ヒマス、政府ノ所見ヲ求メマス

○竹内政府委員 全然御尋ノヤウナ趣旨ニ、私共モ解シテ居リマス

○栗山委員 更ニ第十條ニ付テ御伺致スノデアリマスガ、是ハ本會議ニ於テモ質問ガゴザイマシタ、石油鑛業者ニ對スル所ノ監督ノ件デゴザイマスガ、此御示シニナッタ參考資料ノ中ニモ、昭和二年八月三十日商工省令第八號第四條ニ「商工大臣必要ト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ其ノ事業又ハ會計ニ關シ、檢査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得」斯ウ云フ風ニ明白ニナッテ居ルノデアリマス、是ハ思フニ其獎勵金ヲ受ケタ範圍ニ屬スルモノダ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマスガ、今度ノ場合ニ於テハ之ト違ッテ、抑、助成金ヲ受ケマスレバ、受ケタル者ハ其會社ノ全部ニ對シテ、所謂廣イ監督ヲ受ケル譯デアリマス、會社ニ依リマシテハ助成金ト云フモノハ、極ク一部ノ場合ガアリ、又業者ニ依リマシテハ、

ソレガ全部ノ場合モアル、會社自體ニ依ッテ或ハ鑛業權者ノ種類ニ依ッテ、随分開キガアルト思フノデアリマス、ソコデ僅ナ金ヲ支給シテ、サウシテ重大ナル義務ヲ負ハセルト云フコトハ、法律ノ精神カラ言ッテ、餘リ好マシイコトデハナイト思ヒマス、成ベク斯ウ云フコトハ事實ニ即シタル方法ヲ、御執リニナラナケレバナラナイト思フノデアリマスガ、此點ニ付テ政府ノ御考ヲ伺ヒタイ

○竹内政府委員 趣旨ニ於キマシテハ全然私共御同感デアリマス、現在ハ獎勵金ヲ交付シテ居リマス關係ニ於テ、之ヲ監督シテ居ルノデアリマスケレドモ、今回ハ獎勵金ノ交付ヲ受クルト否トヲ問ハズ、總テ石油鑛業自體ノ開發ヲ圖リタイト云フノガ、此法律ノ趣旨デアリマス爲ニ、第十條ニ於キマシテモ、獎勵金ノ交付ヲ受ケテ居ルト否トヲ問ハナイノデアリマス、併ナガラ此會社ガ石油鑛業以外ノ他ノ事業ヲヤッテ居ルト云フ場合ニ於キマシテハ、第十條ノ石油事業ノ範圍ニ於テ、是ハ適用サレネバナラスト云フ風ニ考ヘテ居リマスノデ、此趣旨ニ於キマシテハ全然御同感デアリマス

○栗山委員 私ハ條文ニ付テハ大體此程度ニ於テ質問ヲ終リマスガ、本會議ニ於テモ

商工大臣ノ御答辯ノ中ニ、人造石油ノミ特ニ偏頗ナ獎勵ヲシテ居ルノデハナイ、天然石油モヤハリ一視同仁ニ扱ッテ居ルノダト云フ御答辯ガアツクヤウニ記憶スルノデアリマスガ、洵ニ當然ナコトダト思ヒマス、併シ實際ノ取扱ノ上カラ言ヒマス、私ハ人造石油其モノハ勿論必要デアッテ、多分ニ之ニ力ヲ注イデヤル必要ガアル、是モ當然デアリマス、併ナガラ實際天然石油ト人造石油トノ取扱ニ付テハ、私ハ寧ロ天然石油方面ノ取扱——其助成ニ力ノ入レ方ノ均衡ガ取レテ居ラスデヤナイカ、斯ウ云フ風ニ大局カラ考ヘラレルノデアリマス、此缺乏セル液體燃料ノ現状ニ即シテ、必要已ムラ得ズシテ、此法案ノ如キモノヲ提出サレテ居ル、ソレ程必要ナ場合ニ、日本ハ未ダニ天然石油ニ對シテ力ノ入レ方ガ足りナイ、認識ハシテ居ルケレドモ力ノ入レ方ガ足りナイデハナイカト思フ、今日英國ガアンナ小サナ島國デアリナガラ、而モ豐富ナル石油資源ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、是ハ卑近ナ例デハアルケレドモ、波斯其他ノ方面ニ於テ、隨分冒險的ナ、隨分大キナ犠牲ヲ拂ッテ、長イ間ノ努力ガ酬イラレタノデア

ル、佛蘭西ガ今日ハ、其自給自足ガ出來テ居リマセヌカモ知レマセヌケレドモ、相當ノ成績ヲ舉ゲルト云フコトハ國家ガ非常ナ犠牲ヲ拂ッテ力ヲ傾ケタ結果デアアル、獨逸ハ今ヤ人造石油ガ年産百三十万噸ニ達シテ居ルト云フコトデアリマス、又一兩年ノ間ニハ二百万噸ヲ越スト云フコトデアリマス、ソレモ非常ナ力デアアル、サウシテ獨逸ノ如キ此資源ノ少イ國ニ於テハ「コスト」ガ幾ラ高クテモ宜イノダ、物ヲ出セバ宜イノダト云フ一貫不動ノ方針デ物ノ經濟ニ對シテ、眞ニ其眞價ヲ發揮シテ居ル、私ハ我が日本ハ決シテ獨逸程苦シイ國柄デハナイト考ヘル、併シ此液體燃料ニ限ッテ、其苦シサニ於テ、私ハ決シテ獨逸ニ劣ラスト思フ、デアリマスカラ此液體燃料ノ缺乏ノ狀況、此必要ノ程度ノ現状ニ鑑ミマシテ、私ハモット力癩ヲ入レテ貰ヒタイ、サウ云フ考カラ言ヒマスト、全般的ニ私ハ此法案ノ取扱方ヲ、増産增量ト云フコトヲ主眼ニシテ、サウ云フ一貫不動ノ精神デ御取扱ヒヲ願ヒタイト云フコトガ、大體私ノ質問ノ眼目デアリマス、是ダケ私ハ申上ゲテ置キマス、私バカリ質問シテハ濟ミマセヌカラ、簡單ニ終ヘタイト思ヒマスガ、商工省デ御取扱ヒニナッテ居リマス所ノ、重要礦物増産法ニ付テハ豫算ヲ計上シテ技術者ノ養成ニ大變力ヲ入レテ居ルガ、此液體燃料關係ニ付テノ技術者ノ

養成ニ付テ、ドウ云フ御計畫ガアルカ、ソ
レヲ伺ヒタイ

○竹内政府委員 此液體燃料ノ問題ニ付キ
マシテハ、人造石油ト天然石油ト兩方並ン
デ、政府ガ施設シテ行カケレバナラスノ
デアリマス、先程ノ御意見ノ中ニ、別ニ御
尋デハナカッタウデアリマスガ、政府ガ
人造石油ニハ相當力ヲ盡シテ居ルヤウデア
ルガ、天然石油ニ付テハ、ドウダラウカト
云フヤウナ意味ノ、御言葉ガアリマシタケ
レドモ、政府ニ於キマシテハ決シテ此間ニ
差異ヲ設ケテ居ル譯デハナイノデアリマ
ス、唯物ガ違ヒマス爲ニ、是ハ増産ヲ圖ル
ト云フ方法ガ違ヘバ、自ラ政府ノ助成ノ方
法モ違ッテ、今日ニ來テ居ル譯デアリマス、
併シ天然石油ニ付キマシテモ、今後政府ノ
助成金竝ニ製造上ノ改善ニ依リマシテ、大
イニヤラナケレバナラスト考ヘテ居リマ
ス、技術者ノ養成ニ付キマシテ、其必要ナ
コトハ政府ニ於キマシテモ、十分實ハ認め
テ居ルデアリマス、文部省當局トモ連絡
ヲ取リマシテ、急イデ其講座ヲ殖ヤスト
カ、或ハ又業者ノ方ニ向ヒマシテモ、技術
者ノ養成ニ力ヲ盡スヤウニ、折角努力ヲ致
シテ居リマス、秋田、北海道等ニ於ケル高
等ノ學校ニ於キマシテハ、特ニ其方面ニ力

ヲ盡シテ居ルト承知致シテ居リマス

○粟山委員 私ハ商工大臣ガ本會議ニ於テ
御答辯ニナツタコトニ依リマシテ、現在ノ
石油業法竝ニ帝國燃料工業株式會社法案、
ソレカラ此石油資源開發法案ト云フヤウナ
モノノ實施ニ依リマシテ、此五年後ニ、又
人造石油ト致シマシテハ七年後デナケレ
バ、此豫定計畫ガ遂行サレヌデアリマス
ガ、大體五六年後ニ於テ漸ク日本ノ需要量
ノ半額ニ達セシメタイ、所謂消費節約ト云
フヤウナ方面、或ハ合成法、代用燃料ト云
フヤウナ方面マデ、手ヲ著ケラレテヤルト
云フヤウナ、御説明ノヤウデアリマス、此
石油ノ缺乏セル日本ノ状態ニ於テハ、是ハ
非常ナ努力デアリマス、其努力ニ對シテハ
政府當局ニ感謝スル、併シ其自給自足ト云
フ眼目ニ付キマシテハ、甚ダ日暮レテ道遠
シノ感ナキヲ得ナイ、國際情勢ト云フヤウ
ナコトヲ、私ハ諄々申シマセヌガ、今日議
會ニ現レタル所ノ、切羽詰ッテ法案ノ審議ヲ
要求サレル所以ノモノハ、何カト云ヘバ、
即チ國際情勢ト云フモノガ、非常ナ事ヲ豫
想サレルト云フコトヲ如實ニ示シテ居ル、
國內ニ於テノ經濟情勢ハドウカト云ヘバ、
是亦然リデアリマス、ソコデ内外ノ斯ウ云
フヤウナ場合ニ於テ、私モ液體燃料ノ如キ

ハ、色々ナ必要ナモノノ中デ、最モ早ク是

ハ自給自足ノ域ニ達セシメナケレバナラス
ト思ヒマス、五箇年後ニナツテ初メテ半分
位シカ見當ガ付カスト云フヤウナコトデ
ハ、非常ニ私ハ心細イデアリマス、ソレ
モ已ムヲ得ナイトシテモ、モット其場合ニ
前途ヲ見透シテ、自給自足ノ域ヲ促進スル
爲ニハ、私ハドウシテモ人造石油デ以テ二
百万噸デ宜シイガ、此國內ノ石油、ソレカ
ラ植民地ノ石油資源、サウ云フ方面ニ於テ
ハ、出來ルダケ私ハ掘出シテ、出來ルダケ
早ク其國防、産業ニ資スルト共ニ、物ノ經
濟ノ、此大キナ國策ノ目當ニスルト云フコ
トガ、二重三重ニ必要ダト思ヒマス、日本
ノ物ノ經濟ニ對スル目當ニスル、是ハ非常
ニ重要ナ問題デアリマス、其爲ニハ私ハ
モット大袈裟ニ、唯言ヲ大ニシテ當局ニ迫
ルノデアリマセヌガ、モット規模ヲ大ニ
シテ、具體的計畫ヲ樹テテ、其採油ノ方針
ヲ樹テタル、ガ宜イト思フ、私ハ是ダケノ
案デハ心細イデアリマス、政府委員ハ五
百万圓餘ヲ此五六年ノ間ニ支給スルト申サ
レテ居ルガ、此法案ニ依リ支出スル豫想額ニ
付テ、商工大臣ハ千數百万圓ト云フコトヲ
言ハレテ居ル、アナタハ五百万圓餘ト言ハレマ
スガ、全體ニ於テ千數百万圓ト云フコトヲ、

貴族院ノ速記録ニ依ッテ伺ッテ居ルデアリ

マスガ、私ハ此千數百万圓ノ金デモ尙且ツ
物足りナイデアリマス、何モ金ヲ餘計
使ッテ下サイト云フノデアリマセヌケレ
ドモ、早ク自給自足ノ見透シガ付クヤウニ
即チ生産ノ豫測確定ヲ早ク進メルコトガ肝
要デアルマイカ、此豫測基礎工程ヲ進捗セ
シメルニハ、ドウシテモ人造石油製造ヲ促
進セシメ、更ニ天然資源タル國內ノ石油地
帶ハ勿論、植民地ノ石油地帯ニ「ボーリン
グ」ヲ下シテ試掘スルコトデアッテ、是ハ
モウドン／＼「ボーリング」ヲ下シテ、サウ
シテ掘ッテ見ルヨリ外ハナイ、是ハモウ運
命付ケラレタ、ドウシテモヤラナケレバナ
ラヌコトダト私ハ痛感スル、院議ヲ尊重シ
テ此法案ヲ御提出ニナツタ大臣竝ニ政府當
局ノ御誠意ト、其非常ナル御努力ニ付テ感
謝ト敬意ヲ表スルモノデアリマスガ、願ク
ハ來ルベキ機會ニ於テハ、モット大キナ規
模デ、モット徹底シタ自給自足ノ觀測ガ、
モット早イ機會ニ具體的ニ測定シ得ル程度
ニ進メテ貰ヒタイ、自給自給ハ何時ニナッ
タラ出來ルカ見透シガ付カナイト云フコト
デハ、満足シ得ナイデアリマス、是等ノ法
案實施ニヨリ五年後ニハ需要ノ半額ニ達ス
ルトスルナラバ、其以後何箇年ニ於テ自足

自給ノ途ハ出來ルト云フコトヲ確カメ得ルコトガ肝要デアッデ夫レガ今ヨリ三年後ニ見透シガ付クトスレバ、今ヨリ三年間ニ大キナ資金ヲ運用シテモ、眞ニ自給自足ノ大方針ヲ早く推定確立スルコトガ、國策ノ根本義デアルト信ズルモノデアリマス、然ルニ天然石油モ人造石油モ、代用燃料モ、將又消費節約モソレ／＼各方面ニ於テ、力ヲ注ギマシテモ、今日尙ホ自給自給ノ見當ガ付カナイト云フ段階ヲ踏ミツ、アルコトヲ、私ハ心細ク感じテ居ルノデアリマス、三年經ッたら自給自給ノ見込ヲ付ケル、五年經ッたら自給自給ノ見込ガ付ク、是ガドウシテモ必要デアル、其見透シノ付カナイ段階ヲ踏ミツ、アルコトヲ、私ハ心細ク思ッテ居ル、現下ノ日本ハサウ云フ國情デハナイト思フ、思切ッテ茲ニ三年目ニ於テ見透シヲ付ケルカ、四年目ニ於テ見透シヲ付ケルカ、五年目ニ於テ見透シヲ付ケルカ、見透シヲ付ケル事態ニ持ッテ行カナケレバナラスト云フコトガ、今日必要ナコトデアルト考ヘル、此點ヲ當局ニ切ニ希望シテ置キマス、ソレカラ技術者ノコトデアリマスケレドモ、私ハ實ハモウ有體ニ申上ゲマスガ、一昨年ハ樺太ヘ旅行シマシテ、内幌ノ山ヲ見テ來マシタ、昨年末ニハ朝鮮ノ永安ニ參リ

マシタ、其間寒氣ニヤラレテ一日休ンダ爲ニ、阿吾地ノ液化工場ヲ見ルコトガ出來マセヌデシタガ、併シ本省ニ居ラレタ酒井君ナドト一緒デアリマシタノデ、酒井君ガ參ラレタアトデ、酒井君ニ新東京デ話ヲ聞イテ參リマシタ、私ハア、云フ飛行機ガ僅カ十分カ十五分デ浦鹽カラ飛ンデ來ラレル所デ、千數百萬圓ノ設備ヲシテ、國策ニ副フ事業タル此石炭液化事業ヲヤッテ居ラレルト云フコトハ、洵ニ宜イ度胸デアッテ、斯ウ云フ實業家ガアッテ初メテ頼母シイト思ヒマシタ、私一面識モアル人デハアリマセヌガ、野口ト云フ人ハ洵ニ感心ナ人ダト思フ、併シ其事情ヲ聞キマスト、マダ修理ヲ要スル點ガアルヤウデアアル、中々實際ヤッテ見ルト、技術的ニ面倒デアアル、併シ是ハモウ日ナラズシテ、立派ナ製品ヲ出スデアリマセウ、特ニ液化工業ノ技術者ハ事業ノ上ニ多分ニ重大性ヲ持ッテ居ル、ソレダケニ人造石油事業方面ノ技術者ハ、普通ノ技師カラ高等ナル技術者マデ、非常ニ優秀ナ人材ガ必要デアルト私ハ思フ、多數ノ技術者ヲ養成シ、其多數ノ人的準備ガアッテ、初メテ増産ガ出來ル、其多數ノ人間カラ、マダ優秀者ニ磨キ上ゲナケレバナラス、更ニ高等技術員ヲ必要トスル、更ニ天才的技術員

ヲ必要トスル、サウ云フ者ノ出デ來ルコト、左様ナ貴キ天才ヲ發見スルコトヲ必要トスル、ソレニハヤハリ優良ナル人材ヲ子飼ヒニスルトカ、或ハ中等學校、專門學校、大學ニ學バシメル様ニ獎學制度ヲ設ケルトカ、又ハソレ等ノ卒業生カラ選抜シテ專修セシメルトカ、其方面ニ力ヲ注ギ十分ニ費用ヲ使ッテ、良イ者ヲ養成サレルコトガ必要ダト思フ、海軍ナドハ、兵學校ヲ出ラレル迄ニハ一人ノ學生ニ一萬圓掛カル、健康ナ體格ヲ持チ、頭ノ良イ青年士官ガ、其上ニ又學校ニ入り、海外ニモ遊び、非常ニ勉強ヲサセテ養成サレルカラ、兎ニ角ア、云フヤウナ驚異的ナ成績ヲ擧ゲテ行クノデアル、私ハヤハリ斯ウ云フ國家的ニ必要ナ事業ニ對シテモ、思ヒ切ッテ費用ヲ要求サレテ、根本的ニ人材ノ養成ニ十分努力サレルコトガ必要ダト思フ、ア、云フ方面ノ人材ノ養成ニ取掛ラレルコトガ、先ヅ大切ナコトデハナйкаト思フ、私ハ實際諸所ヲ旅行シテ工場ヲ見デ、サウ云フコトヲ實感スルノデアリマス、私ハ此等ノ話ヲ申上ゲルト諄々シクナルカラ申上ゲマセヌガ、痛切ニソレヲ感ズル、私ハ特ニ金ヲ掘ルトカ、鐵ヲ物ニスルトカ云フヤウナコトヨリ、此人造石油ノ事業ナドニ對スル方面ガ技術的ニ

困難ナモノト考ヘラレルガ、モット／＼技術者養成ト云フコトニ付テ、重要サヲ感ズルノデアリマス、私ハ此點ニ於テ今カラデモ遅クナイカラ、追加豫算ヲ御出シニナッたら結構ダト思フ、私共ハ其協賛ニ努力シタイト思フ、是ハドウシテモ速ク前途ニ準備シ、萬全ヲ期スル必要ガアルト信ズルモノデアリマス、ソレ程マデニ私ハ熱意ヲ以テ考ヘテ居ル、工場ヲ造ルヨリモ其方ガ、寧ロ先キニ必要ダト思フ、私ハマダ北支ノ液體燃料計畫ニ付テ申上ゲタイノデアリマシガ、兎モ角私ノ質問ヲ是デ一旦打切りマシテ、他ノ諸君ニ御願致シマス

○森田委員長 別ニ答辯ハナイデスナ

午後一時半マデ休憩致シマス

午後零時二十六分休憩

(休憩ノ儘散會)